

唐船グムイ

山内清 (1908・M41) 字長浜 (02:06)

唐船グムイぬ 話 いさびんどー。唐船グムイぬ
話 んでいしえー、昔、護佐丸ぬ山田城から
座喜味城 にかい移ていもーちやる時代や、那覇港
ん出来らん、泊 港 ン無らん。

その場合に支那ぬ国え、昔 え唐んでい言たし
が、彼処から閩船ぬ入ち来っ。長浜んでいる村
あ支那ぬ国から一大西洋、彼処から一東海なたぐ
とうやー、支那ぬ国から。船え密国船るやぐとう、
帆前船、入るま来ぐとう、長浜海にかい着ちやる
ばー。着ちやぐとう、うぬ唐船グムイすん 所 にか
い、支那の帆前船おうきてい。

さぐとう、うぬ密国船から茶壺とか、耳甕と
か、味噌甕、あり持ち来ぐとう。だーうれー密
国るやぐとう、自由ぬ一商売やならん。それから、
船は唐船グムイに着きてい、長浜ぬメーヌヒラぬ
トーゲーミーヤーという洞窟にかい隠みとーてい、
その支那から持って来た焼物隠みとーてい、閩売い
さるばー。

そうして、その支那人は商売を目的にし、思う
通りに商売やさぐとう、支那にかい帰たんでい。
あれは、今、唐船グムイという岩はね、支那ぬ帆前船
の形。

やしが、私達お爺達あ時代や、うぬ唐船グムイで
いしえーやっ、十尋ん二十尋ん深さぬ有たしが。こ
の戦争ぬ世ぬ中にアメリカ人が沖繩にかい上陸
する為なかに、畑 ン山 ン原野 ン敷ちとーみたぐと
う、上からカスガー、バラスぬ流りてい来っ、その
にじっびる ぶか あ とーしん やま はたけ
二十尋ん深さ有たる唐船グムイや、山や畑から
流りてい来る、この砂利ぬいっばいさーに。

昔、今ぬお爺達あ学校時代んでれー、彼処って
い泳じ、下 ンじうぬ砂 掴 いでい来る人お居らんだ
しが、今あな一浅くなてい。今あ、潮ぬ引ちちは
いぬー、ただ足首る濡だする。

【共通語訳】

唐船グムイの話をしませうすよ。昔、護佐丸が山田城から座喜味城に移られた頃、那覇港や泊港もまだなかった時代の話だよ。

その当時、支那には唐と言っていたが、そこから閩船が長浜の港に入ってきたんだって。長浜は支那からすると、大西洋の東の方に位置しているの、そこからの密国船、帆前船が着いたのが長浜の海だった。それで、支那の帆前船が着いたということで、そこは唐船グムイと呼ばれるようになったわけだ。

支那人はこの密国船から、茶壺や耳のついた甕、味噌甕などを持って来た。だが、それは密売品なので、自由には商売できない。それで、船は唐船グムイに着けて、長浜のメーヌヒラ（前ヌヒラ）にある、トーゲーミーヤーという洞窟に品物を隠して閩売りしたわけさ。

そうして、商売を目的として沖繩にやってきた支那人は、それがうまかったんで、しばらくして支那に帰って行ったんだって。あの唐船グムイにある岩は、支那の帆前船の形をしている。

私らが若い頃には、その唐船グムイというのは、十尋から二十尋の深さがあったんだがね。去る戦争の時、米軍が沖繩に上陸し、畑や山、それに原野も全て敷き均してしまった。その時、二十尋もあった唐船グムイに、たくさんの砂利が流れ込んでしまったんだ。

私らが若かった頃は、あそこで泳いで、海底の砂を掴める人はいないほど深かったけど、今はもう浅くなっている。今では、潮が引くと、足首が濡れるぐらいの深さしかない。